（様式４）

◆　（お名前）

齋藤ひろみ（さいとうひろみ）

＜職　名＞

東京学芸大学教職大学院　教育実践創生講座　教授

＜略　歴＞

小・中学校の教諭として教壇に立ったのち、中国での生活を経験。
帰国後、民間の日本語学校で日本語教師として働き始める。
中国帰国者定着促進センターにおいて、小中学生対象の日本語教育に取り組む。東京学芸大学国際教育センターにて、国内の外国人児童生徒教育に関する研究・調査活動を本格化。
同大学教育学部に所属し、教員養成課程や現職教員対象の研修で「多文化教員」の育成・養成に取り組む。現在、同大学教職大学院の専任教員として、教師教育に従事。

＜関心と活動＞

文化間移動をする子どもたちのライフコースを伴走するような教育･支援のあり方を探るために、日本語教育の方法、特に「内容（教科等）と日本語の統合学習」の実践とその成果について、現場を巡りながら検討を重ねている。また、日本生まれの子どもたちのリテラシーの発達について、作文の分析を通して、多面的に捉えるために調査研究を重ねてきた。現場の先生方との関わりとしては、日本語指導担当・外国人児童生徒担当教員・支援員の方の研修会にお邪魔し、子どもの見取り・実践・そして教師としての力量形成について、現場の先生方とともに考えている。

・2012 年より編集長として、「言語教育実践イマ×ココ」（ココ出版）発行。現在第 7 号を編集中。
・2016 年より「子どもの日本語教育研究会」を立ち上げ事務局長として運営。年間 3 回の実践・研究の交流のためのワークショップ・研究会・大会を開催。2018 年度よりジャーナルを発行。
https://www.kodomo-no-nihongo.com/
・2017 年度より文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（日本語教育学会）調査研究本部代表として事業を実施。https://mo-mo-pro.com/

【著書】

・齋藤ひろみ・人見泰弘(2018)「外国人の子どもたちの言語・文化の継承」石井正己編『世界の教科書に見る昔話』三弥井書店
・小島勝・白土悟・齋藤ひろみ編著（2016）『異文化間に学ぶ「ひと」の教育（異文化間教育学大系 第 1 巻)』明石書店
・齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子（2015）『外国人児童生徒の学びを創る授業実践ー「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』凡人社
・齋藤ひろみ・今澤悌・花島健司・内田紀子(2011)『外国人児童生徒のための
の支援ガイドブック―子どもたちのライフコースによりそって』凡人社
・齋藤ひろみ・佐藤郡衛(2009)『文化間移動をする子どもの学び―教育コミュニティの創造に向けて』ひつじ書房
・川上郁雄・石井恵理子・池上摩希子・齋藤ひろみ・野山広（2009）『「移動する子どもたち」のことばの教育を想像する』ココ出版
・齋藤ひろみ（2005）『外国人児童生徒の「教科と日本語」シリーズ　小学校「JSL 社会科」の授業づくり』スリーエーネットワーク

【文部科学省関連の委員】

・学校における JSL カリキュラムの開発にかかる協力者会議本部会議委員・社会科部会とりまとめ
・『外国人児童生徒の受け入れの手引き』作成協力者
・「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」研究推進委員

（様式４）

・日本語教育学会　文部科学省委託事業「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」調査研究本部代表

＜対応可能地域＞

特にございません。日程的に許せばどちらへでも参ります。

※　本様式は文部科学省ホームページに掲載いたします。

（様式４）別紙　　齋藤　ひろみ

講師として担当可能な内容（モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応）

内容	○大項目　・小項目　※項目の一部は複数の内容で取り扱う	担当可能◎ 基礎的内容は可能○
A　外国人児童生徒等教育の課題	○グローバル化と外国人児童生徒等 ・多文化化する学校　・複言語主義　・多文化主義　・言語的マイノリティ ○文化間移動とライフコース ・成長・発達の視点　・社会参加と自己実現　・アイデンティティ ○多文化共生教育 ・異文化間能力　・ダイバーシティ　・市民性 ○公教育の役割 ・社会的正義、公正性　・学習権・言語権　・教育コミュニティ ○日本語教育の位置付け	◎
B　外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策	○外国人児童生徒等の現状と背景 ・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」 ・在留外国人統計　・在留資格　・児童生徒の出身地の教育制度 ・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン) ○外国人児童生徒等教育施策 ・「特別の教育課程」としての日本語指導 ・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール ・就学義務と学習権（不就学、義務教育年齢超過） ・学校制度と入試（高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率） ○地域の特性 ・当該自治体の多文化化状況（集住／散在）　・エスニック・コミュニティ ・外国人支援の状況	◎
C　学校の受け入れ体制	○自治体の受け入れの流れ ○自治体（教育委員会）の指導体制 ・日本語学級の設置 ・拠点校（センター校）　・巡回指導　・通級 ・初期集中日本語指導教室（プレクラス） ・就学前準備教育教室（プレスクール） ・日本語指導員・母語相談員の派遣 ○校内の指導体制 ・校務分掌（外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当） ・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携 ・教員の加配　・派遣日本語指導員、母語相談員 ・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者 ・取り出し指導（抽出指導）／入り込み指導 ・「特別の教育課程」と個別の指導計画　・評価と成績 ○教員・支援員間の連携 ・校内教職員・支援員の連携　・他校との連携　・保幼小中高間連携	◎
D　文化適応	○外国人児童生徒等の文化 ・宗教　・習慣　・学校文化（「隠れたカリキュラム」）　・非言語行動 ○文化接触 ・自文化中心主義／文化相対主義　・文化本質主義／文化構築主義 ・ステレオタイプ、偏見、差別　・対話　・異文化の受容　・自己肯定感 ○子どもの文化適応 ・異文化適応のプロセス　・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化） ・情意面、行動面、認知面の違い	◎

E　母語・母文化・アイデンティティ	○母語と第二言語 ・バイリンガリズム　・二つの言語の関係（二言語相互依存仮説） ・言語環境　・言語の使い分け ○アイデンティティ ・アイデンティティの動態性・多面性　・母語・母文化とアイデンティティ ○母語／継承語教育 ・家族とのコミュニケーション　・認知面の支えとしての母語 ・母語保持・伸長の支援	◎
F　言語と認知の発達	○子どもの言語発達 ・一次的ことばと二次的ことば　・萌芽的リテラシー　・ことばと思考 ・第二言語習得のプロセス(沈黙期、チャンク等)　・言語発達と発達障害、学習障害 ○言語能力の捉え方 ・コミュニケーション能力　・言語の四技能　・生活言語能力と学習言語能力 ○言語能力の測定法 ・言語テストの目的、実施方法、結果の活用 ・言語能力測定ツール（文部科学省「JSL 児童生徒のための対話型アセスメント（DLA）」）	◎
G　日本語の特徴	○外国語としての日本語 ・音韻、文字・表記、語彙、文法　・学校文法との違い　・諸言語との対照 ○文章・談話 ・ジャンルと文体　・ことばの機能　・表現の意図　・結束性 ○場面とことば ・言語使用域　・敬語　・話しことばと書きことば ・共通語と方言　・ことばの性差	○
H　子どもの日本語教育の理論と方法	○日本語指導の内容（シラバス） ・構造（文型）、場面、トピック、機能　等 ○言語教育の考え方と方法 ・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ ・内容（教科等）と言語（日本語）の統合学習（文部科学省「JSL カリキュラム」） ・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導 ○学習活動 ・文型練習（パターン・プラクティス等） ・意味を重視した活動（タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等） ○教材・教具（リソース）の利用と作成 ・教材の分析　・教材の作成（補助教材・ワークシート・リライト教材等） ・メディアの活用　・知的財産権・著作権 ○教科の指導 ・「主体的・対話的で深い学び」　・教科教育法 ・授業のことば　・教科のことば　・学習参加のための支援	◎
I　日本語指導の計画と実施	○日本語のコース設計の手順 ・実態把握（学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境） ・目標設定と指導内容の決定　・指導方法と評価方法の決定 ○日本語プログラム ・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」）、教科の補習 ・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム ○指導計画の作成 ・年間指導計画の作成　・対象児童生徒と指導期間の決定　・目標と評価 ・日本語プログラムの組み合わせ　・「特別の教育課程」としての日本語指導 ○模擬授業 ・日本語指導の学習指導案の作成　・模擬授業の実施　・振り返り	◎

J　在籍学級での学習支援	○学習参加のための支援 ・スキャフォールディング（足場かけ　例：「JSL カリキュラム中学校編」日本語支援の５つの視点）　・フォーカス・オン・フォーム ○学習環境づくり ・校内、教室内の掲示　・教材の言語面への配慮（教材、教具、試験問題） ・周囲の児童生徒との相互学習　・周囲の児童生徒による支援 ○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け（カリキュラム・マネジメント）	◎
K　社会参加とキャリア教育	○キャリア教育 ・自己実現　・ロールモデル　・進路指導（進学・就職／多言語進路ガイダンス） ・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置　・就労と在留資格 ○社会参加とことばの力 ・情報リテラシー　・社会参画　・市民性教育	◎
L　保護者・地域とのネットワーク	○保護者の教育参加の促進 ・日本語力への配慮（通訳・翻訳、やさしい日本語） ・教育制度・学校文化理解の促進（学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ） ・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施 ・保護者の社会的状況への配慮（外国人の雇用状況とその背景等） ○多文化家族 ・言語・文化の違いによる断絶　・サード・カルチャー・キッズ ○地域、専門家との連携・協力 ・地域の外国人支援の状況　・エスニック・コミュニティ　・居場所づくり ・国際交流協会、NPO 団体等との連携　・福祉・医療等関連機関との連携 ・大学等教育研究機関との連携	◎
M　現場における実践（実地教育・研修）	○現場での実践（観察、交流、支援、授業の実施） ・対象児童生徒の多様性（言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他）の理解 ・指導体制・指導条件の多様性の理解　・条件に応じた指導計画の作成 ・状況に応じた支援の工夫　・関係者との連携・協働 ○実施記録の作成と振り返り ・現場の状況　・実施内容　・授業・活動時の児童生徒の参加状況 ・担当教員・関係者から得た情報 ○実施した授業の振り返り ・作成した指導計画について　・当初の子ども観・教材観・指導観等 ・児童生徒の学び　・授業時の支援・対応について ○現場での実践における倫理	◎
N　成長する教師（教員・支援員）	○省察的実践家 ・自己の変容　・自己研修　・実践の共有 ○外国人児童生徒等教育の専門性の向上 ・日本語教育に関わる専門性　・外国人児童生徒等教育に関わる専門性 ・他の領域の専門家との協働 ○教師（教員・支援員）としての成長 ・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味 ・リーダーとしての役割　・新しい価値の創造　・社会への働きかけ	◎